

令和8年度 杉並区立高南中学校 学校経営計画

杉並区立高南中学校

校長 菱田 千晶

＜杉並区教育ビジョン2022＞

私たちが大切にしたい教育 みんなのしあわせを創る杉並の教育

I 共に尊重し大切にしたいこと

- ◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる ◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる
- ◇誰もが社会の創り手として生きる

II 一人ひとりが教育の当事者として心がける視点

- ①子どもの思いを尊重する ②ちがいを受け入れる ③対話を大切にする
- ④学びの成果を贈り合う ⑤社会を創る当事者として考える

＜教育目標＞

◎すすんで学ぶ人 ・思いやりのある人 ・たくましい人

＜目指す学校像＞

- ・コミュニティ・スクールとして地域と共にある学校
- ・再チャレンジの機会を保障し、一人ひとりの生徒が自らのよさを発揮し、活躍する学校
- ・安心・安全で、居心地のよい学校
- ・多様性を認め、互いを尊重し、切磋琢磨する学校
- ・地域・保護者と相互理解を行い、積極的に協力・協働することで、教育力を発揮する学校
- ・生徒、教職員が共に人権感覚を磨き、自信と誇りをもって共に成長する学校

＜目指す生徒像＞ 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成

（１）可能性に挑戦する生徒の育成

学校のあらゆる教育活動を通して、夢や希望、目標をもち、その実現に向けて、より主体的、能動的に自らの可能性に果敢に挑戦しようとする生徒を育成する。失敗することを認め、互いに高め合うことができる生徒を育成する。

（２）探究的な学びに挑戦する生徒の育成

自ら問いを見だし、課題を立て、どのように解決していくか、主体的に考えることができる生徒を育成する。また、他者と協働的に学習を重ね、異なる意見を受け入れ、尊重する態度を育成する。

（３）思いやりの心とたくましく生きる力をもつ生徒の育成

学校の教育活動全体を通して、他人を思いやる優しい心とたくましく生きる力をもつ生徒を育成する。不断の努力で心身を鍛え、粘り強く取り組む生徒を育成する。

（４）社会性、特に基本的な生活習慣と規範意識をもつ生徒の育成

基本的な生活習慣とともに、社会に必要な資質であるルール・マナー・モラルを身に付け、地域社会の一員としての自覚と社会性をもつ生徒を育成する。

<今年度の具体的な取組>**(1) 確かな学力の定着と向上**

基礎的・基本的な学力の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。各教科において、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導を行う。特に各教科で書く力の育成を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた探究的な学習活動を行う。

(2) 道德教育の充実

「考える道德」「対話し議論する道德」の授業を通して道德的価値について考える。人間としての生き方について考えを深め、道德的な判断力、信条、実践意欲と態度を育てる。

(3) 探究学習及び教科横断的な学びの推進

総合的な学習の時間における学習を核として、探究学習とSDGsの視点を取り入れた教科横断的な学習を推進する。これらの学習によって、自ら問いを見いだし、課題を立て、解決する力や主体的に行動する力を身に付けさせる。

(4) 小中一貫教育の推進

杉並第三小学校、杉並第十小学校と、学びの連続性・系統性を重視した小中一貫教育を推進する。合同研修会等を通して、教職員のつながりをつくるとともに、学習者が主体となる授業づくりと各校の課題を連携・協働して解決するための教育活動の提案、実施に取り組む。また、児童生徒が交流を図り、互いの考えを共有することができる教育活動を実施する。

(5) 地域・家庭との協働による教育活動の推進

学校運営協議会、学校支援本部、青少年委員や保護者等と連携した地域行事、ボランティア活動等を通して、生徒が学校や地域における自己の役割と責任を自覚し、地域社会に貢献しようとする態度を育成する。

(6) 情報活用能力、課題解決能力、情報モラルの育成

すべての教育活動において、生徒の1人1台タブレット端末の効果的な活用を行う。ICTや図書館の活用による情報活用能力と課題解決能力の育成を図る。また、情報モラルを身に付けさせ、インターネット環境におけるデジタル機器の適正な利用ができるようにする。

(7) 体力向上と健康教育の推進

体力調査等の結果に基づいた課題別指導による体力向上と、自己の健康に関心をもち、将来にわたって健康を維持・増進させるための健康教育を推進する。

(8) 特別支援教育

支援が必要な生徒について、一人ひとりの教育的ニーズを把握するとともに、特別支援教育校内委員会を中心とした全教職員による共通理解と組織的な取組を行うことで、生徒の能力を引き出し、伸ばすように支援する。

(9) 教育相談

いじめ等の問題行動や虐待、不登校生徒への対応について、一人ひとりの心理的・家庭的な要因から生徒の理解を深めるとともに、教育相談委員会を中心として、いじめ等の未然防止や早期対応に組織的に取り組む。

また、不登校生徒に対して、生徒一人ひとりの気持ちに寄り添い、オンライン授業や校内別室対応事業（学校内の居場所づくり）など、学校とのつながりを絶やさないための多様な方法を提案し、実施する。

(10) グローバル教育とボランティア教育

国際理解教育を通して、グローバル化社会に対する意識を高め、多様性を理解し、共生する力を育成する。また、日本人としての自覚と誇りの涵養に努めるとともに、ボランティア・マインドの醸成と地域ボランティアへの積極的な参加を促す。

(11) 学習環境の構築と授業改善の継続

昨年度まで3年間継続していた「学びのユニバーサルデザイン」に基づいた学習環境を構築する。学習者が主体で、自ら学習方法を選択できる授業をより一層推進する。

(12) 外部人材を招聘した授業の充実

地域・保護者をはじめとする外部人材を招聘した授業や外部団体の協力による授業を充実させるとともに、社会とのつながりを重視した教育活動を行う。

(13) 教職員の働き方改革

ワーク・ライフ・バランスの意識を高め、校務 DX を推進し、効率的・効果的な職務の遂行を行う。校務分掌の見直しを行い、教員が所属する部会や委員会が、より連携して業務を遂行できるようにする。学年・分掌における業務の平準化を進め、時間外在校時間の縮減を行う。

〈今年度の目標〉

- 校務 DX チェックリスト回答を昨年度よりプラス 100 点を目指す。
- 1 か月時間外在校時間が 45 時間以下の教職員の割合を 100%とすることを目指す。

〈具体的な取組内容〉

- 校務分掌等の見直し
 - 探究プロジェクトを立ち上げ、研修委員会と ICT 活用委員会の 2 本立てにして、ICT を活用した探究学習を実施する。
- 教職員・生徒の ICT 活用（ハイブリッド授業実践及び生徒の記録、成果物等の保存）
- 教職員が、1 か月に 2、3 回各自で定時退勤日を設定する。
- 学校業務の適正化を図るため、部活動の地域展開を推進する。

- ＜目指す教職員像＞** 「チーム高南」 同じ方向を向いて、協力して職務を遂行する組織
- (1) 新たなことや可能性に挑戦する教職員
 - (2) 人権意識をもち、相手への敬意をもって接する教職員
 - (3) 子どもの声に耳を傾け、寄り添い、共感する教職員
 - (4) 授業を大切にする教職員(プロとしての自負心と授業力向上を図る自己研鑽への意欲)
 - (5) 生徒や地域・保護者と良好な人間関係をつくる人間味にあふれた教職員
 - (6) あらゆることに気付き、行動できる教職員(アンテナの感度を高く)
 - (7) 公務員として、全体の奉仕者であるという自覚をもった教職員